

し尿・浄化槽汚泥収集について まとめ

1 課題と方向性

(1) 非効率的な収集体制

ア 課題

下水道等の普及などに伴い、収集量が減少しているなか、バキューム車は過剰な状態にあり、非効率的な収集体制になっている。

イ 委員からの意見

- 収集業者は必要であり、車両の統廃合をスムーズに進めるべき。
- 現在の状況から、自然と統廃合は進んでいくのではないか。
- 新潟市では合理化事業計画を策定しないのか。

ウ 方向性

- 不要となる車両の減車。
- 車両の専用化による効率化。

(2) 公共サービスとしての継続性

ア 課題

収集業者の経営が不安定なことから、業者間に格差が生じるだけでなく、市民サービスの格差に繋がるのが懸念される。

また、今後も収集量の減少が見込まれるが、規模を縮小しながらも継続していかなければならない、公共サービスである。

イ 委員からの意見

- 業者を支援するための合理化事業計画を策定すべき。
- 行政でしっかりサポートしていくべき。

ウ 方向性

- 小規模な専業事業者の他業務への転換。
- 他業務への転換を行うため、事業再編による統廃合。
- 計画的な収集体制の縮小。

2 今後のあり方

将来に渡る安定した市民サービスの確保と収集業者の経営の安定を図ることにより、し尿及び浄化槽汚泥を適正に処理していかなければならない。

そのためには、小規模な専業事業者の事業再編による統廃合や減車、併せて他業務への転換などの一定の合理化が必要なものである。市としては合理化事業計画を策定するなど業者への支援措置も必要であることから、実施にあたっては、業者との意見交換を十分に行い、すすめていくこととする。